

(有)三河工機袋井製作所

【 2023年度版 】

環境経営レポート

(対象期間：2023年令和5年4月～2024年令和6年3月)



認証番号0007712

認証・登録日： 2011年11月10日

発行日： 2024年11月26日
(第16版発刊)

(※2019年11月10日：「エコアクション21ガイドライン2017年版」適合)

目 次

【Plan】 計画の策定

□ 環境経営方針		
〔基本理念〕		
〔基本方針〕		
〔行動指針〕	．．．	3
□ 組織の概要		
〔事業所名〕・〔所在地〕・〔連絡先〕		
〔事業内容〕・〔事業の規模〕・〔事業年度〕	．．．	4
□ 認証・登録の対象組織・活動	．．．	4
□ 環境マネジメントシステム組織図	．．．	5
□ 役割・責任及び権限（一覧表）	．．．	5

【Do】 計画の実績

□ 環境への負荷の状況（取りまとめ表）	．．．	6
□ 主な環境負荷の実績	．．．	6
□ 環境経営目標・実績	．．．	7
□ 中長期環境経営目標	（達成手段）	．．．
		8

【Check】 取組状況の確認及び評価

□ 環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取り組み内容	．．．	9
□ 環境関連法規等の遵守状況	．．．	11

【Action】 全体の評価と見直し

□ 代表者による全体の評価と見直し	．．．	12
□ 環境経営活動の紹介	．．．	14



HPもご覧ください
<http://www.mikawakouki.co.jp/>

環境経営方針

〔基本理念〕

有限会社 三河工機袋井製作所は、地球温暖化をはじめ地球環境を次世代へ継承することが人類共通の最重要課題であることを認識し、ダイカスト部品の製造を中心とする全ての事業活動において地球環境を保全するために、美しい近隣の自然を守り【安全・安心なものづくり】を目指し循環型社会の発展に貢献する事を誓約します。

〔基本方針〕

弊社は、環境保全活動を推進するにあたり、新エネルギーを活用し、環境理念に基づいた環境マネジメントシステム構築の維持管理を図るため、以下の項目を掲げ重点項目として取り組みます。

〔行動指針〕

弊社は、次の環境経営を計画的に取り組み実施します。

- 1、① CO₂の排出量削減の為に使用電力削減・使用燃料削減を図ります。
② 水資源の枯渇予防の為に、地下水の使用量削減に努めます。
③ 廃棄物削減の為に3Rを推進します。《3R（リユース・リデュース・リサイクル）》
④ 化学物質（作動油等）の使用量を適正管理します。
⑤ 不良率を低減し生産効率を高めることにより①～④の削減活動を推進します。
⑥ 「グリーン購入」は常に「環境配慮商品」を購入します。
⑦ カーボンニュートラル、地球温暖化対策への貢献、エネルギー資源の有限性等を踏まえ、新エネルギーの導入を推進します。
⑧ 経営における課題とチャンス را考慮して環境経営目標を定めると共に取組を定期的に評価すると共に必要に応じ見直します。
- 2、適用する環境関連法規を把握し、それらを遵守します。
- 3、環境経営方針は、全ての従業員に周知するとともに、環境に関する意識の向上を図ります。
- 4、エコアクション21を通して、SDGs（持続的な開発目標）に貢献します。
- 5、環境経営システムを運用し、環境経営レポートとして対外的に明示し、全ての利害関係者とのコミュニケーションを図ります。

有限会社三河工機袋井製作所

制定日： 2011年04月01日

改定日： 2024年09月02日

代表取締役

廣野晏司

□ 組織の概要

(1) 事業所概要

事業所名	有限会社三河工機袋井製作所		
代表者	代表取締役社長 廣野 晏司		
住 所	静岡県袋井市宇刈3213-1		
TEL	0538-48-7129		
創立年月	1976年12月 （昭和51年）		
従業員	37名	※従業員数には正社員、パート社員を含む。	
資本金	500万円		
延べ床面積	2,143㎡		

(2) 事業内容

輸送用機器部品の製造（ダイカスト鑄造等）

売上高 84,500 万円 【令和5年4月～令和6年3月】

＊事業会計年度

毎年度10月～9月ですが、エコアクションの取り組みは、4月～3月でまとめ
売上高についても同様に4月～3月で計上することとします。

アルミ製品生産量 1,577 t

□ 認証・登録の対象組織・活動

有限会社 三河工機袋井製作所は全社で取組めます。

環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者

常務取締役 廣野 徹

TEL : 0538-48-7129

E-mail : mikawakouki@vcs.wbs.ne.jp

EA21事務局担当者

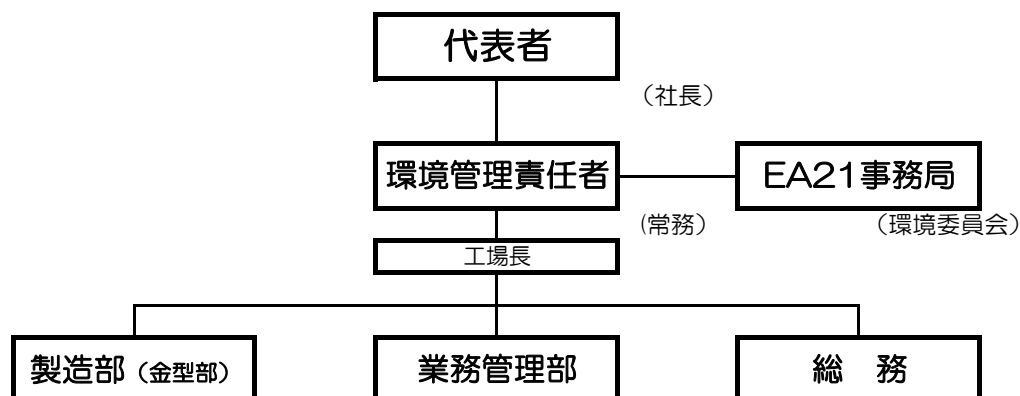
業務管理部品質保証係 湯毛 宏

E-mail : mk-gyoumu2@sky.wbs.ne.jp

業務管理部品質保証係 伊藤 光治

E-mail : mk-gyoumu-c@vcs.wbs.ne.jp

□ 環境マネジメントシステム組織図



□ 役割・責任及び権限 (一覧票)

職 位	役割・責任	権 限
社長	① EA21の最高責任者 ② 環境経営方針の制定、見直し、改定 ③ EA21システムの承認 ④ EA21の経営資源の確保・分配 ⑤ 環境管理責任者の任命 ⑥ EA21全体の評価と見直し ⑦ 環境経営目標、経営計画の承認	EA21の構築・運用・維持・改善に関する全権限
経営層	① EA21代表者不在時の代理執行 ② EA21システムの構築・運用・維持・改善に関する側面支援	代表者不在時のEA21の構築・運用・維持・改善に関する全権限
環境管理責任者	① 経営者の代行執行 ② EA21システムの構築・運用・維持・改善の遂行及び付随する確認、評価、判断等実務上の全ての責任 ③ 代表者による全体の評価と見直しのための必要情報の収集及び報告	EA21の構築・運用・維持・改善を遂行するための左記に関する事項の事務局 ・全部署に指示する権限
EA21事務局 (環境委員会)	① 法規等の把握及び監視測定、届出等 ② EA21マニュアルの策定・見直し・改定 ③ 環境経営レポートの作成・公表 環境目標及び環境経営計画の実績把握 ④ 教育・訓練の実施及び記録 ⑤ その他環境管理責任者の支援 ⑥ 環境経営目標・経営計画の制定、策定及び進捗	環境管理責任者の指示により、左記に関する事項の全部署に指示する権限
工場長 及び 管理監督者	① 環境管理責任者の指示事項の周知、実行 ② 環境経営計画の実施	左記の事項に関し工場内従業員に対し指示する権限
従業員	手順・ルールを遵守する責任	—
共通	① 環境改善の提案 ② 当該環境改善の実施	—

□ 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

年 度 項 目		2023年4月～2024年3月				
		量	Co2排出量 (kg-Co2)	割合 (%)	環境負荷の要因となる活動	
エ ネ ル ギ ー 使 用 量	電力1：オリックス(株)	294,571 k Wh	98,976	27.12	*1	
	電力2：中部電力	855,400 k Wh	376,376		*2	
	電力3：太陽光発電	383 k Wh			*3	
	軽 油	2,898 ℓ	7,477	0.43	*4	
	灯 油	1,864 ℓ	4,641	0.26	*4	
	液化ガス（LPG）	421,779 k g	1,265,337	72.19	*5	
	合計（エネルギー）		1,752,807	100.0		
一般産業廃棄物排出量		1,528 k g				
産業廃棄物総排出量		38,910 k g		100.00		
中間処理量		38,910 k g		100.00		
うち再資源化量		38,004 k g		97.67		
最終処分（埋立）量		0 k g		0		
水 使 用 量 及 び 総 排 出 量	上水	950 m ³				
	工業用水	0 m ³				
	地下水	2,947 m ³				

□ 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,907,380	1,928,545	1,404,032	1,620,305	1,644,244	1,752,807
*Co2排出係数	←	0.336	0.336	0.336	0.336	0.336	*1・*2
一般廃棄物量排出量	t	2.22	3.31	1.14	1.75	1.75	1.53
産業廃棄物排出量	t	31.72	43.44	33.80	37.09	45.16	38.90
水使用量（上 水）*	m ³	—	—	718	717	550	950
水使用量（地下水）*	m ³	—	—	5,415	5,854	9,564	2,947
総排水量 *	m ³	4,968	4,129	2,220	2,400	3,921	1,208
化学物質（作動油）使用量	kg	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理

- *1 オリックス(株)より2023年4月～2023年6月まで3ヶ月間電力購入 Co2排出係数は0.336kg-CO2/kWhとする。
 *2 2023年7月以降中部電力より購入 Co2排出係数は0.440kg-CO2/kWhとする。
 *3 太陽光発電は、発電量集計が8月よりPC不具合にて集計されず。PC新規装設予定。
 *4 軽油：2.58kg-Co2/ℓ・灯油：2.49kg-Co2/ℓ を排出係数とする。
 *5 液化石油ガス（LPG）の排出係数は3.00 kg-Co2/m³とする。
 *6 排水量は地下水使用量の41%とする。（生産工程による冷却水のため蒸発する為）
 また、排水量には、製造工程のにて使用される上水道使用量に対する排水量に限定する。

□ 環境経営目標・実績

項 目	年 度		基準値	2022年度		2023年度	
			(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
電力の二酸化炭素排出量削減 (ほぼ達成○・一部達成△・未達×)	kg-CO2	達成度合	711,438	655,792	424,453	636,118	475,352
		基準年比	(2015年度)	92%	65%	89%	75%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減							
※5 (LPG)	kg-CO2	達成度合	1,093,620	1,008,082	1,209,309	977,840	1,265,337
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)		基準年比	(2015年度)	92%	120%	89%	129%
※5 (軽油)	kg-CO2	達成度合	6,865	6,728	7,841	6,659	7,477
		基準年比	(2020年度)	—	×	—	×
※5 (灯油)	kg-CO2	達成度合	3,160	3,097	2,641	3,065	4,641
		基準年比	(2020年度)	—	○	—	×
				98%	85%	—	151%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		1,815,083	1,724,329	1,644,244	1,672,599	1,752,807
一般廃棄物の削減	t	達成度合	2.45	2.40	1.75	2.38	1.53
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)		基準年比	(2015年度)	98%	73%	97%	64%
産業廃棄物の削減 (廃油等)	t	達成度合	41.1	40.28	45.61	39.87	38.90
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)		基準年比	(2015年度)	95%	113%	97%	98%
*排水量の削減	m ³	達成度合	4,593	4,501	3,934	4,455	1,208
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)		基準年比	(2015年度)	95%	87%	97%	27%
化学物質使用量の削減 (作動油)	kg	達成度合	4,000	適正管理			
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)		基準年比	(2015年度)				
*環境配慮	%	達成度合	3.32			3.15	3.36
製造工程における不良率低減		基準年比	(2015年度)			95%	107%
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)							
グリーン購入比率の向上		達成度合		※4	※4	※4	※4
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)							
購入総額の比率		達成度合					
会社周辺の清掃活動	活動頻度	達成度合	3回以上/年	3回以上/年	4回以上達成	3回以上/年	4回以上達成
(ほぼ達成○・一部達成△・未達×)					○		○

※2023年度より新規項目『環境配慮』として工程内不良率の低減を追加した。

算出方法：鋳造工程内不良ショット数/年間TOTALショット数×％（但し、捨て打ちは不良ショット数には含まない）

※軽油：0×2.624kgCo2・灯油：0×2.492kgCo2 換算とする。

※2023年度4～6月オリックス(株)より電力購入。7月～翌年3月は中部電力より購入。

※2018年度より化学物質（作動油）に関する管理は適正管理とする。環境方針：改訂済（PRTR対象物質でない為）

※4 2019年度より「グリーン購入」は常に「環境配慮商品」を購入することとした。

※5 2020年度より2017年版（取りまとめ表）に基づき化石燃料Co2排出量実績をLPG・軽油・灯油に分割した。（2019年以前の実績は合計値）

*排水量は地下水使用量の41％とする。（生産工程による冷却水のため蒸発）

*排水量には、製造工程のにて使用される上水道使用量に対する排水量に限定する。

□ 実績に対する評価・コメント

項 目			評価 ・ コメント
二酸化炭素 排出量削減	電 力		今年度は目標達成しているが、昨年の実績と比較し10%程度多くなった。 生産量の増減にも大きく左右されるが、来期に向け油断せず節電に心がけ、1人1人の意識向上のため啓発をすすめます。
	化石燃料	LPG	原因追及を掘り下げ、たどり着いた原因にて、アルミ溶解炉の老朽化に対し、常日頃の溶解炉のメンテ、監視が重要と分かりました。
		軽油 灯油	適切な暖気運転時間をマニュアル化し、燃料の節約につとめます。 冬場の暖房器具を灯油以外の温源の利用を検討します。
産業廃棄物 排出量削減			離型剤、金型冷却水が濾過膜にてろ過され、廃油となった量が割合を占める。 昨年と同等の廃油量であった。汚水処理設備の老朽化も含め更に削減していきます。
水使用量及び 排出量削減			昨年の是正処置により金型冷却水補給ピットの水量リミットSWの調整にて、 今期は大幅な排水量削減が出来ました。
工程内不良 不良率削減			受注が減り、多品種少量生産にて、段取り替えが増え、工程内不良のカウントが増大した。品質保証係によるパトロールチェックの頻度を増やし削減に努めます。

□ 中長期環境経営目標

項 目	年 度	責任部門 責任者	基準値	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			★（基準年度）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	環境委員会	482,817	453,848	449,020	444,192	439,363
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・LED化 ・不必要電気 消灯	・LED化 ・省エネコン レッサーへの交 換	・LED化 ・空調設備の 適正利用	・太陽光発電 の増設検討	・省エネ設備 の導入化検討
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	k g	製造部	391,266	367,790	363,877	359,965	356,052
※5 (LPG)	kg-CO2		1,173,798	1,103,370	1,091,632	1,079,894	1,068,156
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・溶解保持炉 の自主保全	・リターン材 の溶解前予熱 検討	・溶解保持炉 の自主保全	・空焚き防止 の啓蒙活動	・省エネ設備 の導入化検討
※5 (軽油)	ℓ	業務管理部	3,823	3,594	3,555	3,517	3,479
	kg-CO2		10,032	9,430	9,329	9,229	9,129
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・ドライブレ コーダデータ解 析によるルート 確認	・低燃費車の 導入検討	・納品配送の 委託化検討	・ハイブリッ ト車・EV車 導入検討	・配送ルート の効率化
※5 (灯油)	ℓ		994	934	924	914	905
	kg-CO2		2,477	2,328	2,304	2,279	2,254
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・空調設備の 再検討	・暖房設備の 再検討	・WARMBIZ 呼びかけ	・WARMBIZ 呼びかけ	・WARMBIZ 呼びかけ
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		1,661,432	1,578,360	1,545,132	1,562,577	1,529,680
一般廃棄物の削減	t	環境委員会	1.85	1.74	1.72	1.70	1.69
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・両面印刷の 推進	・梱包資材リ サイクルの推 進	・梱包資材リ サイクルの分 別	・印刷枚数の 制限電子デー タへの変更	・電子データ への変更推進
産業廃棄物の削減 (廃油等)	t	製造部	37.5	35.27	34.89	34.52	34.14
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・SDG s への 貢献	・SDG s への 貢献	・SDG s への 貢献	・SDG s への 貢献	・SDG s への 貢献
*排水量の削減	m ³	環境委員会	3,507	3,297	3,262	3,226	3,191
	基準年比		(2020年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・排水量の削 減	・節水のコマ の導入検討	・ワンタッチ レバーへの交 換検討	・地下水使用 量使用用途再 検討	・節水の啓蒙 活動
化学物質使用量の削減 (作動油)	kg	製造部	4,200	適 正 管 理			
			(2020年度)				
*環境配慮	%	製造部	3.32	3.12	3.09	3.05	3.02
製造工程における不良率低減	基準年比		(2015年度)	94%	93%	92%	91%
	達成手段		・金型メンテ ・パトロール チェックの頻 度検討	・研修生の教 育強化	・冷却水出し 忘れ撲滅	・金型メンテ 一覧作成	
グリーン購入	%	業務管理部	100%	常に環境配慮商品を購入する			
エコマーク商品等の購入推進			(2020年度)				
社会貢献		環境委員会					
SDG s への貢献	活動頻度		3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年	3回以上/年
会社周辺の清掃							

※2023年度より新規項目『環境配慮』として工程内不良率の低減を追加し目標を設定。

※2024年度より目標値は、基準年度を2020年度にし算出（2023年度目標迄基準年度2015年）

※2023年度4～6月オックス(株)より電力購入。7月～翌年3月は中部電力より購入。

※軽油：ℓ×2.624kgCo2・灯油：ℓ×2.492kgCo2 換算とする。

※2018年度より化学物質（作動油）に関する管理は適正管理とする。（PRTR対象物質でない為）

※「グリーン購入」は常に「環境配慮商品」を購入することとした。

*排水量は地下水使用量の41%とする。（生産工程による冷却水のため蒸発）

*排水量には、製造工程のにて使用される上水道使用量に対する排水量に限定する。

□ 環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

環境経営計画	結果	次年度取組判定	評価、次年度の取組内容	担当部署	頻度
電力による二酸化炭素排出量の削減 (2023年度 6 月迄オリックス(株)Co2排出係数0.336適用：7 月以降中部電力0.440)					
数値目標：基準年より3%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・生産稼働率の向上（不良率低減活動）	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・ダイカストマシン金型の自主保全の強化	◎	継続	適正管理出来た。	金型部	通年
・空気圧縮機及びエア洩れ点検（台数制御監視強化）	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・空調温度の適正化（冷房24～26℃ 暖房18～20℃）	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・空調フィルターの定期掃除（2回／年：夏冬大掃除時）	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・不必要電灯の消灯と監視	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	2回/年
・太陽光発電の監視測定	△	強化	発電集計PC不具合にて、新調打診中	EA21事務局	1回/月
・鋳造機の長時間停止時のモーター停止と監視	○	継続	適正管理出来た。	製造部	通年
・LED照明の計画的導入推進	◎	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年

化石燃料による二酸化炭素排出量の削減					
数値目標：基準年より3%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
運送	・アイドリングストップ	△	強化	DR：ドライブレコーダーの解析等により監視強化。	業務管理 通年
	・効率的なルート配送,共同配送	△	強化	DR：ドライブレコーダーの解析等により監視強化。	業務管理 通年
	・共同配送の実施	△	強化	共同配送を含め計画的に実施する。	業務管理 通年
	・啓蒙活動（アイドリングSTOPの周知）	○	継続	適正管理出来た。	EA21事務局 通年
製造工程	・溶解保持炉の自主保全	△	強化	適正管理強化します。	製造部 通年
	・保温性を良くし保持燃費の向上を計る（炉体の断熱、遮熱）	○	継続	適正管理出来た。	製造部 通年
	・保温性を良くし保持燃費の向上を計る（炉蓋）	○	継続	適正管理出来た。	製造部 通年
	・ヒータの計画的導入	○	継続	適正管理出来た。	環境管理責任者 1回/年

一般廃棄物の削減					
数値目標：基準年より3%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・両面印刷の推進	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・裏紙使用の推進	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・梱包材のリサイクルの推進	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年
・分別の啓蒙活動	◎	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年
・事務用品の使用量削減の推進	◎	継続	適正管理出来た。	業務管理	通年

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

環境経営計画	結果	次年度取組判定	評価、次年度の取組内容	担当部署	頻度
産業廃棄物の削減					
数値目標：基準年より3%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・分類の推進	○	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年
・分類表の作成	○	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年
・リサイクルの推進	○	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年
・金型水冷のメンテナンス推進による廃水処理量の削減	○	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	通年
・金型水冷の水漏れ状態日常監視	○	継続	適正管理出来た。	製造部	通年

節水					
数値目標：基準年より3%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・地下水使用量の定期的監視・測定	◎	継続	適正管理出来た。	EA21事務局	1回/月
・貯水槽の見直しによる排水の削減	◎	継続	適正管理出来た。	環境管理責任者	1回/月

化学物質使用量の削減					
数値目標：適正管理		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・2018年度より化学物質（作動油）に関する管理は適正管理とする。			使用量の把握ができています。 ※環境経営方針：改訂（PRTR対象物質でない為） 次年度も継続する。	総務	1回/年

工程内不良低減 *2023年度より項目追加にて実施					
数値目標：基準年より5%減		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・金型メンテ	△	強化	金型修理依頼書をメンテ依頼書共用	品質管理部	通年
・パトロールチェック頻度検討	△	強化	金型交換時：立上り初品のチェック	品質管理部	通年

グリーン購入					
数値目標：環境配慮商品の購入		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持			
・2019年度より「グリーン購入」は常に「環境配慮商品」を購入とする。			購入金額の把握は、集計出来ている。 次年度も継続する。	総務	1回/年

社会貢献					
・会社周辺の清掃	○	継続	定期的活動が出来た。	EA21事務局	2回/年
・地元自治体主催のイベントに参加	○	継続	地元の環境維持活動等に貢献出来た。	EA21事務局	2回/年
			次年度も積極的に参加活動する。		

□ 環境関連法規制等の遵守状況

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。

- ・環境省HP、静岡県環境局HP、広報ふくろいHP（袋井市）の1回／年チェック
- 普段から法規制の動きには注意を払う。（担当部署：環境委員会）

適用される環境法令等 県条例含む	該当する 条項等	届出先	適用される要求事項 (施設・物質・事業活動等)	遵守評価
環境基本法	法8・9条	責務	環境を適正に保全する措置：EA21の取組	○
健康増進法	第25条	責務	『望まない受動喫煙』が生じない措置を推進	○
受動喫煙防止対策（第78号）			屋内喫煙禁止（喫煙所の設置3ヶ所）	○
大気汚染防止法	法6条	静岡県	県生活環境保全条例（ばい煙）溶解保持炉9台	○
フロン排出抑制法	第16条	責務	第1種特定製品 空調機12台簡易点検	○
	第19条		コンプレッサー6台（第1種特定製品 3ヶ月毎簡易点検）	○
	法5条		環境影響の少ない製品の新設・買換え	○
水質汚濁防止法	第35条	静岡県	県生活環境保全条例 排水処理設備	○
騒音規制法	第6条	袋井市	特定施設の届出	○
	第8条		コンプレッサー6台、クーリングタワー4台（定期点検）	○
振動規制法	第5条	袋井市	特定施設の届出	○
	第6条		コンプレッサー6台	○
廃棄物処理法	法12条の4	責務	産廃業者の許可確認	○
	法14条	責務	産廃業者委託契約の締結（契約書の有効年月日確認 7年間）	○
		責務	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、がれき、廃油等）	○
	法12条の3・5	責務	マニユエストの交付、回収、照合確認（保管期間5年間）	○
		静岡県	マニユエストの交付状況の報告	○
	第1・7・13・14条	責務	小型電子機器等の分別廃棄	○
	第9条第1号	責務	小型家電のリチウム蓄電池使用製品の適切な分別	○
	第6条	責務	TV・洗濯機・冷蔵庫エアコンの適切な廃棄	○
	第15条	責務	保管基準（表示：種類・氏名・連絡先）	○
	第10・11・12条	責務	水銀使用製品の適切な分別・保管・管理・処理	○
消防法	法17条の3	袋井市消防署	火災報知機、消火栓、消火器の定期点検と報告	○
労働安全衛生法	法28条の2	努力義務	産業廃棄物に対する化学物質のリスクアセスメント	○

* 遵守評価の担当部署は、全て環境管理責任者及び環境委員会にて実施

① 違反訴訟等の有無

- ・環境関連法規等の遵守状況のチェック及び評価の結果、環境関連法規等は遵守しています。
なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去12年間ありません。（2012年4月～2024年3月）

- ・その他、利害関係者からの指摘、苦情はありません。

（2012年4月～2024年3月）

② 法的義務を受ける主な環境関連法規等は次の通りである。

環境関連法規等の遵守状況のチェック及び評価の結果、環境関連法規等は遵守しています。

□ 代表者による全体の評価と見直し

■ 定期見直し（活動年度終了後）

□ 臨時見直し

実施日： 2024年5月9日

見直しに必要な情報
管理責任者の報告及び改善への提案

〔取り組み状況の評価結果〕	評価	期間
①環境関連法規等の遵守状況	・ 苦情もなく問題なし	2023. 4月～2024. 3月
②問題点の是正処置及び予防処置の状況	・ LPG使用のCo2排出量未達成	2023. 4月～2024. 3月
③改善への提案	・ 特になし	
その他（是正処置対策） LPG使用によるCo2排出量は、1号機溶解炉の老朽化によるLPG使用増加であり原因が究明され、早急に設備交換の発注をしました。 設備搬入後に使用量が減少するかの効果の確認をして下さい。（搬入納期：未定）		

〔目標・環境活動計画の達成状況〕

（詳細は環境活動計画書による）

目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント （目標値に対するコメント・活動計画に対するコメント）
電力の削減	○	○	目標達成につき評価◎
軽油・灯油の削減	×	○	目標達成に向け改善意識を向上させる
一般廃棄物の削減	○	○	目標達成につき評価◎
産業廃棄物の削減	○	○	目標達成につき評価◎
＜改善への提案＞ ・ 老朽化設備の更新の計画案策定。			

〔周囲の変化の状況〕

①環境情報伝達報告書より	・ 問題なし
	・ 客先等提出要請なし
②環境関連法規等の動向他	・ 特になし
＜改善への提案＞ 行政当局からの指摘事項なし。	

【代表者が自ら得た情報】
◆人々の意識や生活様式から産業構造や金融の流れに至るまで、我が国を含む国際社会全体の経済・社会活動のあり方は急速かつ大きく変容しようとしている。一方で、気候変動や感染症をはじめとする地球規模課題の深刻化に加え、国際社会全体がSDGs採択当時には想定されていなかった複合的危機に直面する中、2030年までのSDGs達成に向けた進捗は大きな困難に直面している。さらに、ロシアによるウクライナ侵略やイスラエル・パレスチナ情勢の緊迫化等、SDGs推進に必要な平和で安定した国際環境それ自体が危機にさらされる状況も生じている。これらの状況下複合的危機に対する国際社会全体の強靱性を強化していくことの重要性を改めて強く示すものである。
さらに、将来にわたってかかる取組を継続的に促進し、多様なステークホルダー、とりわけ若い世代の参画を確保していくこともこれまで以上に重要とされる。
日本SDGs推進本部 2023年12月より抜粋

代表者による見直し
変更の必要性の有無・指示事項

〔環境経営方針〕
変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無
・見直しの結果、要求事項を満足させる方針になっており、 現状の方針に則り、活動を維持継続して下さい。
・昨年度改訂された行動指針の活動内容を継続して下さい。
2030年のゴールを目指したSDGsへの貢献に弊社社員 1人ひとりがステークホルダーとして目標に向かう。
エコアクション21は、SDGs【ゴール】へ向かうための 手段であり、継続活動＝SDGsへの貢献にたどり着く。 2022年度より抜粋

〔環境経営目標・環境経営計画〕
変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無
・ポストコロナ時代に突入し、一方で気候変動や感染症をはじめ様々な地球規模の課題が深刻 化しています。そんな状況下SDGsを企業の事業戦略に落とし込むことで持続可能な企業 成長を図っていくことを積極的に取り組んでまいります。
地域社会の課題、特に人口減少はまさにSDGsを原動力とした地方創生を推進すること及び SDGs達成に向けた取組を更に加速化させより一層積極的に発信・共有していきましょう。

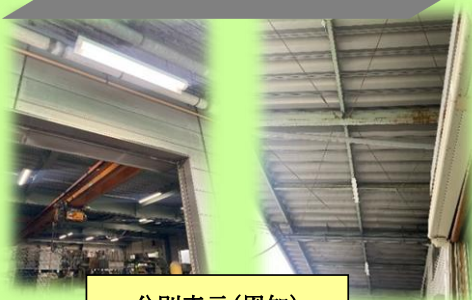
〔総括〕
エコアクション21認証取得から13年目を迎えます。
コロナ明けの市場回復の兆しが、円安、ガス・電気料金の高騰に影響し、受注がコロナ禍以 前に回復しても、手放しでは喜べない状況です。
また、世界的な情勢不安の影響も業界のみならず様々なところに波及していると思われます。
製造業の現実と予測不能な社会情勢、最近特にクローズアップされている南海トラフ地震等 突発的に起りうる災害等に備え、BCPを改めて見直す時期であると考えます。
今後、エコアクション21は、変動する働き方も含め全社員に活動の理解と周知を行い柔 軟で効率的なものに推進させていきたいと考える次第です。

□ 環境経営活動の紹介

工場周辺の美化活動（河川堤防草刈り）



照明のLED化（ランニングコスト削減）



分別表示（周知）



コンプレッサー 台数制御装置



セルフストップ
自閉式手洗い場



クーリングタワー入替（老朽化）



BCP教育（巨大地震注意！）

(有)三河工機袋井製作所BCP揭示 I

作成2012年 2月10日 定期更新 2024年9月11日 見直し2024年9月11日

南海トラフ地震発生確率 30年以内に70～80%の確率！

地震発生 落ちついて 身を守る 火の始末 逃げ道の確保

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意） 令和6年8月8日～8月15日

揺れを感じたら直ぐに避難できる態勢の準備と身の安全の確保

●すぐに避難できる態勢での確認 ●非常時に出発の経路を確認 ●緊急連絡の手段を確認

●屋内でできるだけ安全な場所での生活 ●避難所へ行く際には持ち物を確認

日頃から地震への備えの再確認

●避難場所・経路の確認 ●家具の固定の確認 ●食料・水の備蓄の確認 ●非常時の連絡手段の確認

防災 1日 3日 1週間

1日：身の安全の確保・避難 3日：食料・水の確保 1週間：被害状況の確認・被害状況の把握・被害状況の報告・被害状況の把握

事業継続

津波ハザードマップ（袋井市）

※ BCP＝Business Continuity Plan（事業継続計画）の略です。

HP完成！

<https://www.mikawakouki.co.jp>

